

これからの研究計画 (作成者：齋藤 洋介)

記号について補足する. $|q| < 1$ なる $q \in \mathbb{C}$ に対し

$$(x; q) := \prod_{n \geq 0} (1 - xq^n) \quad (x \in \mathbb{C}), \quad \theta_q(x) := (x; q)_\infty (qx^{-1}; q)_\infty \quad (x \in \mathbb{C} \setminus \{0\})$$

とおく. オイラー微分を $D_x = x \frac{\partial}{\partial x}$ と書き $E_k(x; q) := -D_x^k \log \theta_q(x)$ ($k \in \mathbb{Z}_{>0}$) とおく. $|q| < 1$, $|p| < 1$ なる $q, p \in \mathbb{C}$ に対し

$$(x; q, p)_\infty := \prod_{m, n \geq 0} (1 - xq^m p^n), \quad (x \in \mathbb{C}), \quad \Gamma_{q, p}(x) := \frac{(qp x^{-1}; q, p)_\infty}{(x; q, p)_\infty} \quad (x \in \mathbb{C} \setminus \{0\})$$

とおく ($\Gamma_{q, p}(x)$ は楕円ガンマ関数と呼ばれる).

N を自然数, β を複素数, p を $|p| < 1$ なる複素数とする. 楕円 Calogero-Moser 系のハミルトニアン $H_N^{\text{CM}}(\beta, p)$ を次で定める:

$$H_N^{\text{CM}}(\beta, p) := \sum_{i=1}^N D_{x_i}^2 - \beta(\beta-1) \sum_{1 \leq i \neq j \leq N} E_2(x_i/x_j; p).$$

ここで次のことが知られている: $\Psi_N(x; \beta, p) := \prod_{1 \leq i \neq j \leq N} \theta_p(x_i/x_j)^{\beta/2}$ とおくと

$$H_N^{\text{CM}}(\beta, p) \Psi_N(x; \beta, p) = \{2N\beta D_p + C_N(\beta, p)\} \Psi_N(x; \beta, p) \cdots (*)$$

ここで $C_N(\beta, p)$ は N, β, p で決まるある複素数である. ここで, 上の (*) の右辺に $D_p = p \frac{\partial}{\partial p}$ が現れていることに注目してほしい. これは, 楕円 Calogero-Moser 系の解として, 楕円モジュラス p の無限小変形を伴うものが存在することを意味する.

N を自然数, q, p を $|q| < 1$, $|p| < 1$ なる複素数, $t \in \mathbb{C} \setminus \{0\}$ とするとき, 楕円 Ruijsenaars 系のハミルトニアン $H_N^{\text{R}}(q, t, p)$ は次で定義される:

$$H_N^{\text{R}}(q, t, p) := \sum_{i=1}^N \prod_{j \neq i} \left\{ \frac{\theta_p(tx_i/x_j) \theta_p(qt^{-1}x_i/x_j)}{\theta_p(x_i/x_j) \theta_p(qx_i/x_j)} \right\}^{\frac{1}{2}} T_{q, x_i} \quad \left(\begin{array}{l} T_{q, x} \text{ は } T_{q, x} f(x) = f(qx) \\ \text{と働く } q\text{-シフト作用素} \end{array} \right).$$

ここで $\Psi_N(x; q, t, p) := \prod_{1 \leq i \neq j \leq N} \left\{ \frac{\Gamma_{q, p}(tx_i/x_j)}{\Gamma_{q, p}(x_i/x_j)} \right\}^{1/2}$ とおくと

$$H_N^{\text{R}}(q, t, p) \Psi_N(x; q, t, p) = t^{-\frac{N+1}{2}} \sum_{i=1}^N \prod_{j \neq i} \frac{\theta_p(tx_i/x_j)}{\theta_p(x_i/x_j)} \Psi_N(x; q, t, p) \cdots (**)$$

が成り立つ. ここで $t = q^\beta$ とおいて適当に $q \rightarrow 1$ とすると, 上の (**) から (*) が得られる. よって, (**) の中には, 楕円モジュラス p の何らかの意味での差分変形を引き起こす作用素が含まれている可能性がある. この点について, 楕円 Calogero-Moser 系の知見や, Felder-Varchenko らが提唱した「 q -KZB heat equation」の理論などを参考にして研究を進める.